

2022年06月
SUMMER
第4号

ENGAWA Project
iTOP, Kyushu Univ.

エンガワ

あなたとつながる、縁側系広報誌。

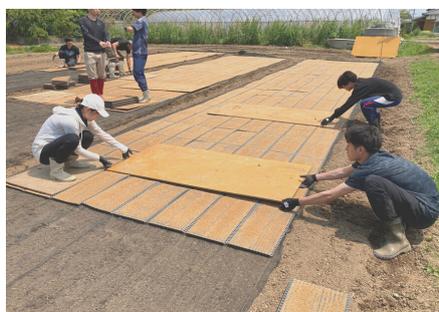


オープンスペース

AD9

Akama Domitory Kyudai

家を綺麗にして
地域の人と
関わる。



榎野 裕太
じょーじ

何でも自分で
やってみる家。

私たちENGAWA Projectは今年の2月から、新しい活動を始めました！その名も”オープンスペースAD9”！篠原という糸島高校前駅に近い地域にある、築100年以上の古民家をお借りしています。そこを改装することで家の不動産の価値を向上するとともに、イベントを開くなどして地域の方々との交流を増やす場所にするを目標に活動しています。

「古いを楽しむ」を事業のコンセプトとして活動しており、改装もイベントも全てメンバーがイチから自分たちの手で行っていますので、ところどころに手作り感が…でもそれもご愛嬌！

また今年のGWに壁に漆喰を塗るイベントを行ったところ、たくさんの地域の方々にご来場頂きました。漆喰塗りはコツがいる難しい作業なのですが、普段しないことができるということで好評を頂きました！今後もこのような体験型のイベントをたくさん開催していきますので、本誌の最後に掲載しているENGAWAのSNSをぜひチェックしてみてください！

column file04

まえばる散歩その2 ～西郷どんはなぜそこに～



山根春佳
はーちゃん



< その1で起きたこと >

商店街に薩長同盟の3人が居るらしいと聞いて探索を行った私は、お店の壁に貼られている3人を発見した。しかし、何故彼らがそこにいるのか真相は謎に包まれていた…
※ 詳細は2021年12月号をチェックしてください！

「どうやらオサダさんが詳しいらしい。」
私の元に情報が舞い込んだ。手がかりを掴んだ私は再び商店街へと飛び出した。オサダさんは、前原商店街を昔から支えているお店の関係者である。どうして西郷どんが壁に貼られているのかきっと知っているに違いない。すると奇跡的にも、お店の前で彼に出会った。ありがたいことにオサダさんに前原商店街の古い歴史の一部分を教えて頂けることになったのである。商店街は昔、唐津街道の宿場町だったそうで、多くの人がかごに乗って訪れていた。昭和にはそれを模して”かごかき合戦”という行事を行っていたらしい。商店街のあちこちにチェックポイントとして、街道を通っていたかもしれない偉人たちの絵を貼っていたそうだ。その名残が今も残っているのである。実は、伊能忠敬もいるらしい。西郷どんがそこに居る理由は奥深かったのだ。

代表から見た ENGAWA

【対談】5期代表たいき×6期代表たいし



植永 泰己 たいき

植永泰己（うえながたいき）。2001年10月26日、福岡県に生まれる。九州大学農学部在籍中。
5期の代表を務めた。持ち前の愛嬌とやさしい人柄は、チーム全体の空気感を明るくしてくれる。座右の銘は「ケセラセラ（なるようになる）」。



永金 大志 たいし

永金大志（ながかねたいし）。2003年3月27日、京都府に生まれる。九州大学工学部在籍中。
前原に住む夢をみたからという理由で前原に住み始めた。
ENGAWA Projectの現代表である。座右の銘は「迷ったらやる」。

ひとりひとりの「やりたい」を 応援できるチーム

植永 対談二回目は僕たち二人ですね。
永金 よろしくお願ひしまーす。
植永 おねがいしまーす！何話す？
永金 せっかく前代表と現代代表のコンビなので、それも交えて話したいですね。
植永 そうだね！

植永 代表になって改めて気づいたこととかはある？
永金 そうですね。やっぱりENGAWAという団体はすごいことですね。
植永 どのところが？
永金 ENGAWAメンバーのほとんどが自分のやりたいことを見つけていることかな。
植永 なるほどね。ひとりひとりが自分が面白いって思うことを頑張っているよね。しかも、それを楽しんでいて、本当にすごい。
永金 他団体と話すと分かるんですけど、他学生団体って「会議に来てくれない」みたいなことで悩んでいるんですよ。
植永 そんな悩みもあるんやね。
永金 そうなんですよ。
ENGAWAってメンバーが「やりたい」と発起して様々な企画が盛り上がっているじゃないですか。それをやりたいと声をあげたメンバーとそれを応援してくれるメンバーはどちらもチームには必要で、それが揃っているENGAWAってやっぱり挑戦するにはうってつけの環境だなと思いました。
植永 それはあるよね。俺もENGAWAのみんなの人間性が好きだし、すごいと思ってる。俺は別に何がができるって言えるほど得意なことはないけど、それを受け入れて成長させてくれるから。

学生と地域の人が共に笑顔になれる場所づくりを

永金 いやそんなことはないと思いますけどね！（笑）例えばどんなことができるようになりましたか。
植永 代表になってプレゼンしたり物事を説明したりする機会が増えたんだけど、もともと言語化するのが苦手なせいで、このENGAWAの人たちはそれを受け入れてくれて、失敗しても否定することは絶対になくて、アドバイスをくれるんよね。そんな場所にいられてほんとに幸せだよ。
植永 大志は何かENGAWAでやりたいことある？
永金 このプロジェクトの「前原を学生街に」という目標にも被ってくるんですけど、九大生にもっと糸島と前原の魅力を広めたいです！九大が移転して、立地が悪くなったと悲観するのではなく、せっかくならこっちでの学生生活をみんなに最大限楽しんでも欲しいです。
植永 代表の鑑やなく。でも実際おいしいお店とか優しい地域の方々とか、前原はおもしろい魅力がめっちゃあるけんね。大志は前原に住んどるけど、やっぱり楽しい？
永金 楽しいですね。僕の地元にはいわゆる「地域のつながり」というものが薄くてまちの人と話さなくなっちゃったのですが、前原で活動して大人の人と話すことで、「こんな考え方をしている人がいるんだ」と発見の毎日です。
植永 学生にとって博識な大人の方と話すことって貴重な時間やもんね。大学では専門的な学問を勉強するけど、ここでは



対談中のふたり（左・植永 右・永金）

人間の基礎を学んでる感じ。
永金 人間の基礎って良い表現ですね。たいきさんは何かやりたいことありますか？
植永 んー具体的にはあんまり思いつかないかな。俺はさ、目の前の人が笑顔でいられたらそれだけでいいけん（笑）。だから、ENGAWAみんなの前原とか糸島の人たちと一緒に笑顔でいられる場所を作りたいな。
永金 たいきさんらしいですね。ENGAWAから笑顔の輪が広がると良いですね。
植永 今年もまた新入生が入ってきてくれてどんどんENGAWAもおっきくなっていくから、できることもどんどん増えてって楽しみやね！
永金 これからのENGAWAにご期待を！

あなたとつながる、縁側系広報誌。

縁側は古くから、外の空間と部屋との間にある曖昧な空間として日本家屋独自の意匠となっています。ご近所さんを出迎え話し込んだり、天気の良い日に日なたぼっこをしたりと、気軽な交流や憩いの場として親しまれています。

そのようななにかを大学生として作りたい。

それはありふれた建物としての縁側でも、型にはまったSNSでもなく、

手紙のような手渡しされる広報誌なのではないかと考えました。

これはみなさまに見守っていただきたい、私たちのちょっとした挑戦です。

the editors 山根 春佳 / 喜多 悠 / 榎野 裕太 / 前田 佳凜



ENGAWA Project from iTOP, Kyushu Univ.

九州大学公認地域活性化団体iTOPで活動しているプロジェクトのひとつ。「筑前前原を学生団体に」を使命に、シェアハウスやイベントスペース、学生居酒屋の運営を行っている。



@ENGAWAproject.maebaru



@engawa_project



@AprojectEngaw